



### 3月の聖句

光の子として歩みなさい

エフェソの信徒への手紙 5章8節

三寒四温を繰り返しながら暖かな春はもうすぐです。

先週より平常保育となり安堵しています。年度末の大切な日々をと、つい後ろ向きになる気持ちを超えて・・・今できることに感謝し前に向かって進みたいと思います。

保護者の皆様には沢山のご協力を頂き心よりお礼申し上げます。本当に有難うございました。

砂場に子どもの背丈より高い大きな山が2つ、年長児が毎日せつせと高くしています。みんなの気持ちの一つになって無心に作る姿は、尊い祈りにも通じると感じます。

年長さんから年中さんへの飼育と放送の引継ぎ期間を終え 25日に引継ぎ式、例年年中長4クラスがホールに集まっていたのですが、密を避けるため2クラスずつ2回に分けて行いました。バトンタッチされた年中さんはちょっぴり緊張の面持ちでしたが、任された喜びもうかがえ頼もしく思いました。

年長さん主催のお店屋さん、出来たことに大喜び！いつもよりゆったりとした内容で開店です。年中少さくらんぼ・ナーサリーの子どもたちは、心のこもった年長さんのもてなしに大感激、手作りのキーホルダーなどを買って、素敵な交流の時になりました。

マスクを外す食事の感染が一番心配されます。しゃべらないで食べる黙食とパーテーションを設置しての食事になりますが、静かに食べる子ども達に「楽しい食事」とは程遠い生活を強いていることは仕方ないとはいえ、コロナの大変さを子ども自身が理解しており、しばらくは我慢の時です。パーテーションだけで万全とはいきませんが、こまめな換気（エアドッグの数値）や消毒を心掛けて今年度最後の月を元気に過ごしたいと切に願っています。

3月は、今まで交流のあった年長さんの卒業を祝い、年中少組でお別れパーティーを計画します。今できる最善のもてなしを各クラスで相談して、楽しい時となるよう計画しています。

50周年の記念の年でしたが・・・運動会・プレイデーで皆様と共にさやかに祝えたことで充分感謝しなければと思います。

今月の聖句は、園のシンボルにもなっている園舎の壁画（原画はホール）の題です。

「光とは明るい、正しい、温かいものであり、さばくは花咲くさふらんのようにと同じことを指している。幼い日に覚えてこの聖句が人生の指針になって欲しい」と創立者は語っています。

50周年を機にこの園に込めた創立者の「光の子として歩みなさい」と「さばくは花咲くさふらんのように」が子ども達の心に残ることを祈っています。

## 3月の聖句

光の子として歩みなさい

エフェソの信徒への手紙5章8節

園庭の桜の木のつぼみが寒さに耐え少しずつ膨らみ始め、もうすぐ春！と嬉しく眺めています。ナーサリーが静かだった1月の頃、どんなに心配しながらの日々だったかと・・・今元気に遊んでいる子どもたちを見ながら嬉しくてなりません。当たり前前の日常がいかに大切なことかと、今更ながら感じています。

保護者の皆様方にとっても同じ思いのことでしょう。これまでの沢山のご協力本当にありがとうございました。

マスクをつけるのが困難な子ども達にとって、感染対策は本当に難しいと感じます。換気と消毒に加え保育士の子どもたちへの体調を気遣う精神的な負担もはかり知れませんが、今しばらくはこの状況が続くことを覚悟し、いつかは収束することを願って前向きに進んでいきます。

りんごさんは給食の時間、とっても静かでびっくりです！コロナのことが子ども達の心に響いているようで・・・とても健気に感じて胸が熱くなりました。もちろん遊んでいる時はいつもの笑顔と元気な声で、たまには喧嘩や物の取り合いもありますが、普段と変わらず賑やかです。

うさぎさんは、ペットボトルに豆や種を入れ、ボトルに丸いシールを貼って自分だけの素敵なマラカスの完成。それを持って曲に合わせて体ごとリズムに合わせてマラカスを振る姿はいつぱしの演奏家！私一人だけの特別コンサートに感動して大きな拍手を送りました。

うさぎさんもりんごさんも言葉が増え、友達と一緒に遊ぶ楽しさやいろんなことを自分でやろうと頑張っている様子に、入園進級したばかりの頃のことを思い浮かび、この1年の成長を何より嬉しく思います。

りんごさんはさくらんぼさんと一緒に“もうすぐ年少さんパーティー”うさぎさんとりんごさんは“大きくなったねの会”をして4月からの進級に備えたいと思います。

園舎の壁にあるモザイク画は、今月の聖句である「光の子」と題した原画（ホールにある）をもとにしたものです。園庭で遊ぶ子どもたちを優しく見つめています。